

学校の教育目標 小樽の未来をつくる 北陵生の育成

重点目標

- 一 深く学び、考え、表現できる生徒
- 一 豊かに人とつながり、思いやりのある生徒
- 一 たくましく心身を鍛え、自らを律する生徒

未来につながる力を育てる ～ 小中一貫教育の推進 ～

今、子どもたちには、これから社会がどんなに変化して予測困難になっても、それぞれが思い描く幸せを実現するために、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動できる力を身につけることが求められています。北陵中では、意図的・計画的に行われる授業を中心に、行事、その他あらゆる場面で、自ら判断し、行動できるように働きかけ、生徒たちが多くの失敗や成功を繰り返しながら、大人になっても社会の中で自走していけるように、33skillを通し「未来につながる力」の育成を目指します。

令和3年度 教職員の3actions

研究する・指導する・場をつくる ～させて 認める～



教職員のチーム力

学校が責務を果たすためには、教職員相互の関係が良好であることは、とても大切なことです。学校は日々いろいろなことが起こります。だからこそ、一人の教職員が本来もつ力を最大限に発揮するために、組織として対応できる集団でなければなりません。組織的に助け合える職場は日々の安心を生み、ひいては、笑顔あふれる、安心・安全な学校につながります。そのため、私たちは教職員のチーム力を大切にします。

知恵と勇気を出し合い「小さな一歩」の前進に努めます。

魅力ある授業

北陵中では、学校生活の全ての場面で、「生徒の『未来につながる力』を育てる指導」を心がけます。中でも、最も多くの時間を費やす「授業」を柱と押さえ、一人一人の生徒が自ら考え、積極的に表現し、深めていく「主体的・対話的で深い学び」の機会を、学園体制として校区の小学校とも連携を密にし、充実させます。

また、社会で通用する「人づくり」に向け「規律と礼儀」、「先を見通して計画的に行動できる力」等の育成に努めます。

保護者・地域との絆

生徒たちが、日々生活している場は「学校」だけではありません。「家庭」も「地域」も重要な基盤です。

個々の生徒の確かな成長は学校だけの力で十分に得られるものではありません。家庭における教育が非常に大切です。

そのため、私たちは、地域の学校として保護者や地域の方との情報交換や連携を深めることに努め、共同して生徒個々の健やかな成長を支援します。

学校経営の3つの柱

学校経営の基盤

安心して働ける学校



生徒の安心・安全

学校経営の全体構想

小樽市立北陵中学校

公教育の目的・目標

・ 日本国憲法・教育基本法・学校教育法・中学校学習指導要領・小樽市教育推進計画・その他教育関係法規

生徒の実態

- ・学習、部活動、生徒会活動に意欲的に取り組む生徒
- ・学力不振、不登校生徒の増加
- ・コミュニケーション能力の低下

保護者、地域の願い

- ・学力向上と豊かな人間性の醸成
- ・地域とのつながり
- ・社会性の涵養

校訓

よりよく創る

学校経営課題

- 小中一貫教育の推進
 - ・「目指す生徒像」を9年間で育てる
 - ・学園制加配活用事業の推進
 - ・中1ギャップ問題未然防止事業の推進
- 新たな学習指導要領を踏まえた授業改善
- 学校運営協議会の機能化
 - ・社会に開かれた教育課程
- 特別な支援を必要とする生徒への対応
- 生徒と向かい合う時間の確保
- 教職員の働き方改革

令和3年度 学校経営の重点
「未来につながる力を育てる」
～小中一貫教育の推進～

1：教育目標

小樽の未来をつくる 北陵生の育成

2：目指す生徒像

深く学び、考え、
表現できる生徒

豊かに人とつながり、
思いやりのある生徒

たくましく心身を鍛え、
自らを律する生徒

3：目指す生徒像につなぐ生徒の「33 Skill」

主体的に学ぶ力を育て、高める	コミュニケーション能力を向上させ、社会性を高める	集団としての自治的能力を育て、高める
1年生の重点 SKILL		
S1.立腰ができる S2.正しい言葉遣いができる S3.学ぶ意味を理解することができる	S12.気持ちの良い挨拶をすることができる S13.マナー、モラルを大切にすることができる S14.感謝することができる	S23.真面目に人と関わろうとすることができる S24.時間を意識して行動することができる S25.場をきれいにすることができる
2年生の重点 SKILL		
S4.文章を正しく「読み取ること」ができる S5.他人の考え、思いを、「聞くこと」ができる S6.自分の考え、思いを、「持つこと」ができる S7.自分の考え、思いを、「書くこと」ができる	S15.周りの人たちに敬意を払うことができる S16.責任感をもって物事に取り組むことができる S17.自分を大切にすることができる S18.相手意識に立つことができる	S26.話し合いに積極的に参加できる S27.学級・学年に所属感を持つことができる S28.あきらめず、強い心を持ち、努力することができる S29.挑戦する心を持つことができる
3年生の重点 SKILL		
S8.自分の考え、思いを「まとめること」ができる S9.自分の考え、思いを、「話すこと」ができる S10.自分の考え、思いを、「表現すること」ができる S11.自分の考え、思いを、「深めること」ができる	S19.多様性を認めることができる S20.様々な人の努力を認め、共感することができる S21.他人と協力し、達成感を得ることができる S22.自分のキャリア、生き方を考えることができる	S30.危険予測・回避の能力を高めることができる S31.ストレス対処力を身につけることができる S32.生徒会活動に積極的に参加することができる S33.地域に貢献することができる

4：目指す生徒像につなぐ教職員の「3 Action」

※①～③ 学習指導要領「育成を目指す資質・能力の3つの柱」

A1:研究する～「徹底した授業改善と教材研究」

① 何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）

A2:指導する～「生徒のそばで、教え、導き、気づかせる指導」

② どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

A3:場をつくる～「生徒の経験値を高める場の設定」

③ 理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）

5：目指す生徒像につなぐ主な実践

<p>1：学力向上</p> <p>①小中9年間を通した学力の向上 ②教師の授業力の向上 ③中1ギャップ解消を目指した小学校との授業研究の推進 ④加配等を活用した個別指導の充実 ⑤学習室「北陵塾」の活用の工夫 ⑥計画的なキャリア教育、進路指導の充実 ⑦教師、生徒によるICT機器の効果的な活用 ⑧総合的な学習の時間の充実 ⑨学校図書館と授業の積極的な連携 ⑩「NIE」の取組による国語力の向上 ⑪各種検定（英検、漢検等）の資格取得の推奨</p> <p>2：特別支援教育の充実</p> <p>①合理的配慮に基づく支援の充実 ②特別支援教育支援員との連携・充実 ③校内支援委員会の機能向上 ④2小学校との交流推進 ⑤関係機関の積極的な活用・連携</p> <p>3：家庭学習の定着</p> <p>①小中一貫した家庭学習の指導 ②小樽市のルール「おたるスマート7」の指導</p>	<p>1：生徒指導の充実</p> <p>①小中連携した生徒指導 ②教職員の指導の在り方を示す生徒指導の推進 ③学校組織としての共通理解・共通行動の徹底 ④「生徒の33SKILL」を育む、学級経営、教科経営の実践</p> <p>2：道徳教育の充実</p> <p>①道徳の授業研究 ②ふるさと教育の推進 ③情報モラル教育の徹底</p> <p>3：いじめ問題、不登校等への対応</p> <p>①所属感を高める学級経営、教科経営の充実 ②「はつ」などのデータを活用した教育相談の充実 ③スクールカウンセラー等を活用した研修 ④関係機関との連携 ⑤小樽市の取組への積極的な参加 ⑥不登校生徒への学習保障</p> <p>4：読書活動の推進</p> <p>①朝読書の取組 ②図書館司書と連携した生徒会図書委員会活動の充実 ③小学校及び地域、関係機関等と連携した読書活動の推進</p> <p>5：生徒会活動の活性化</p> <p>①学級活動を基盤とした生徒会活動の充実 ②PTA活動と連携した取組 ③2小学校の児童会、地域との交流・連携 ④小樽市の取組への積極的な参加</p>	<p>1：体力向上のための体育授業の工夫・改善</p> <p>①小中9年間を通した体力の向上 ②日常の基礎体力作り ③陸上大会の実施</p> <p>2：健康、安全教育の充実</p> <p>①地域と連携した防災教育の推進 ②安全教育の徹底 ③健康教育の推進 ④命を考えさせる場面の設定</p> <p>3：生活習慣の改善</p> <p>①食育指導の工夫 ②スマホやゲーム等の使用と学習、健康を考えた小中一貫指導</p> <p>4：心と体を鍛える部活動の推進</p> <p>①目標を明確にした主体的な活動 ②本校ガイドラインに基づく休養日等の設定</p> <p>5：社会につながる人間性の涵養</p> <p>①時間を守り、場を清め、礼を正す指導 ②地域の行事、ボランティア等を通じた社会貢献活動</p>
---	---	---